

## 令和4年度臨時役員会会議報告

日 時 : 令和4年10月6日(木) 15時00分～15時40分

開催方法 : オンライン(Zoom)を活用しての開催

出席者 : 役員11名他随行者

○役員(11名、名簿順)

荒井会長、岩本副会長、早川副会長、吹屋理事、柳楽理事、今部理事、山田理事、  
金原理事、定兼理事、福嶋理事、西監事

○会長事務局(4名)

### 1. 協議・報告

(1) 令和4年度予算(案)の一部補正について

○会長事務局

- ・総会資料では、歳入予算 14,966,383 円に対し、歳出予算のうち事業実施等の実際の支出見込額 11,202,000 円と歳入予算の差額 3,764,383 円とすべき予備費を、誤って予算編成中の中間時点の額 4,531,477 円で計上したため、歳入(収入の部)14,966,383 円≠歳出(支出の部)15,733,477 円(11,202,000 円+4,531,477 円)となっていた。この誤りにより、収支は同額となるべきところ、歳出が歳入より過大となってしまった。
- ・これを修正するため、別紙1のとおり、予備費を 4,531,477 円から 3,764,383 円に改め、歳入(収入の部)及び歳出(支出の部)の額を、いずれも 14,966,383 円とするものである。
- ・今回の修正については、後日会員に周知していきたい。

(質疑・意見等)

・なし

<一同承認>

(2) 第25期(令和5・6年度)役員の委嘱に係る調査結果について

○会長事務局

- ・本調査は、全史料協の次期役員(第25期:令和5・6年度)の委嘱について、2年度間を通じて全史料協の業務を行うことの負担等から、機関会員での受け手がないため、全機関会員に役員委嘱の可否を諮るものである。
- ・今回の調査については後日改めて、機関会員あての通知、調査回答様式、調査回答の集計結果を会員各位に周知していく。
- ・令和4年9月7日付で機関会員 139 団体宛に調査を依頼した(一部メール不達8団体、メールアドレス未登録14団体に対しては別途郵送による)。
- ・回答状況は、機関会員 139 団体中、回答済みは 111 団体、未回答 28 団体であった。

- ・回答済み 111 団体のうち、令和 5・6 年度の役員引受を表明しているのは以下の 3 団体（回答順）で、いずれも役員種別を指定している。
  - ・岡山県立記録資料館：大会・研修委員長または調査・研究委員長
  - ・福井県文書館：副会長
  - ・徳島県立文書館：副会長または大会・研修委員長
- なお、残り 108 団体の内訳は以下のとおりである。
  - ・令和 7・8 年度引受可能（2 団体）
  - ・令和 9・10 年度引受可能（2 団体）
  - ・将来も引受不可：103 団体（人員不足・業務量過大等 67 件、組織の現状 15 件、他 21 件）
  - ・未回答：1 団体
- ・過去の役員担当機関については、会報や総会資料などをもとに作成した。また、定兼理事からご指摘をいただきそれを反映させたものである。
- ・組織業務改善計画（平成 27 年度版）は、これまで業務の見直しについてのご提案やご質問のご連絡をお寄せいただいているが、それに対応する過去の取組を示す資料として参考までに提示した。全史料協の業務を将来に繋げていくために、業務の改善としてなるべく委託できる部分を見出していこうと議論されたものである。

（質疑・意見等）

- ・なし

#### ○会長事務局

- ・この調査結果を踏まえて、次期役員（第 25 期：令和 5・6 年度）の構成をどうするかを議論していくところである。会長事務局が全ての人事の調整をしていくことは困難であるため、個人会員の皆様からもご心配をいただき、検討のご協力をしていただいた。それを踏まえて、現段階での一つの叩き台として、執行体制のご提案の資料を私どもにお送りいただいている。早川副会長の方から執行体制案についてご説明をお願いしたい。

#### ○早川副会長

- ・調査が実施されていることなどを受けて、複数の会員の方から私のところに心配の声が多数集まっていた。当初、どこも手を挙げないのではないかと危惧していたが、いくつかの機関には手を挙げていただいて、全史料協として機能はまだしっかりしているなど感じる場所がある。とはいえ全ての役職が埋まっているわけではないので、有志の方々と手分けをしてなんとか埋めていく手立てはないかと動きをとり、執行体制案をお示しした次第である。
- ・会長には個人会員として、辻川敦氏にご内諾をいただいている。個人会員でいいのかという疑問があると思われるが、事務局候補には現会長事務局を務める櫛原直樹氏・西木浩一氏に個人会員の立場ということでご内諾をいただいている。先ほどの調査の結果のとおり、人員や予算など組織の縛りのようなものがあり、地方自治法や各自治体の考え方によってやむを得ない部分が多々あると思われ、個人の立場であるならば、ということでご内諾いただいた次第である。

- ・また、副会長には個人会員の森本祥子氏にご内諾をいただいている。監事には個人会員の毛塚万里氏にご内諾をいただいている。広報・広聴委員会事務局については、調整がうまくいかず現時点で未定という状況であるが、機関会員だけではなく個人会員にもお聞きしているところである。
- ・そもそもこのような調整を進めて案を提示することは、非常に僭越なことではあるが、会員の方々の中には、次期の体制が固まっていない所に予算請求するのは難しいというような、厳しい声もあがっているので、しっかり次期も活動できるということを早くお示ししなければということで、ご了承いただきたい。
- ・空いている人事については、私個人というよりも当役員会の中で言えば、定兼理事や福嶋理事にもご協力いただきながら引き続き調整を行っていきたい。本日この場では、名前が入っているところのご承認とそれ以降の調整についてのご承認をいただき、それが得ることができれば、他の人事についてもお諮りをしていきたい。

#### ○会長事務局

- ・この案では、機関会員で言えば、副会長には福井県文書館または徳島県立文書館、大会・研修委員会事務局には岡山県立記録資料館または徳島県立文書館、調査・研究委員会には岡山県立記録資料館と、先ほどの調査でお引き受けされる候補とされた役職に充てられている。

(質疑・意見等)

・なし

<一同承認>

#### ○会長事務局

- ・ご承認いただいたということで、今後のスケジュールについて早川副会長にご説明をお願いします。

#### ○早川副会長

- ・ご承認いただきありがとうございます。残りの人事も定兼理事・福嶋理事とともに進めていきたいと思えます。先ほどの声にあるとおり早めに決めなければならない状況ですので、調整を11月末頃までに行い、うまくいけば12月頭には臨時役員会を開催していただき、その場でお諮りしたい。そして、年内には会員の皆様の結果をご報告申し上げ、次期の活動をしっかり行っていくことをアピールしたいと考えている。
- ・今回会員からは、次期役員体制が決まってくなくて心配だが、どのような動きがされているのかあまり見えなくて不安だという声も結構寄せられたので、単に難なく決まったというよりも今までの経緯などをまとめて、今回のことを会員にお伝えできればと思っている。また、年度末に開催予定である第2回役員会には、例年とおりに次期役員の方々にもオブザーバーという形でご出席いただき、円滑な引き継ぎを行いたい。

(質疑・意見等)

・なし

<一同承認>

## 2. その他

### ○吹屋理事

- ・大会・研修委員会からですが、いよいよ今月末に滋賀大会が近づいてまいりました。どうぞよろしくをお願いします。次年度の大会については、東京都内で開催するという事で調整中である。会場については、複数箇所にあたっておりますが、昭和女子大学もその候補の一つとして検討している。また、次年度の大会開催に向けて、大会に関わる方々にはご参加のほどお願いしたい。

### ○定兼理事

- ・今回の調査について、分析までとはいかないと思うがもう少し詳しく教えていただきたい。また次期役員体制については、全体的に西日本に偏っていると思われる。今後の調整では、東日本に照準を合わせていきたいと考えている。今後、個人会員の理事をもう少し増やしてもいいのではないかと思うので、検討することをご了承いただきたい。

### ○会長事務局

- ・今回の臨時役員会の報告は、会員に危機意識を共有するためにも、個人情報等を除いた一定程度の情報を提示したい。今回の調査では、それほど危機的状況であるのかというご心配の声と心配しつつも自分の所が引き受けることができないことを申し訳なく思うというような回答を多く得たところである。また、個人会員の理事を増やすことについては、特定の役職を分担し、一人当たりの負担を減らすことになると思われる。